

企業、社会を支える人財(4)「期待されるやり抜く力を持つ人財」

中小企業診断士・技術士 林田収二

今回は、「企業や社会を支える人財の基本要件」の3番目の項目「目的指向性や計画性、柔軟な発想やスピード対応力」を取り上げる。(他の2項は「企業や社会に貢献しようとする志」と「自らが仕事のプロフェッショナルであるという意識」)

企業においても社会においても、物事を成し遂げるやり抜く力をもつ人財が望まれている。

物事をやり抜くには、まずはことに対処するに際して目的を明確にすることが肝要である。そして実行に当たっては計画的に取り組む必要がある。加えて時々刻々変化していく状況に対応して所期の目的を達成するには、臨機応変、柔軟な発想とスピーディーな対応力が不可欠である。言い換えれば「目的指向性や計画性、柔軟な発想やスピード対応力を持つ人財」とは、「物事をやり抜く力をもつ人財」ということができる。

ではやり抜く力を持つ人財たるに、どのような点に留意し、どう具体的に行動すればよいかについて、以下述べる。

【目的指向性と計画性の必要性】

何事も行動を起こす前に目的を明確にすることを忘れてはならない。目的のはっきりしない行動は、焦点が定まらず力が的確に集中できず無駄が多い。ある程度事態が進展してから、何をやっていたのか分からなくなり、振出しに戻るケースもある。物事に取り組む前にその持つ意味、目的、狙いをはっきり認識しておかなくてはならない。

また、物事を遂行するに当たっては、計画的に物事を進め、進捗を確認しながら進める必要がある。行きあたりばったりでは、効率も悪く、品質面での問題も発生しやすい。

【目的の明確化】

常に目的を明確にして計画を立てながら物事に取り組むことを心がける必要がある。

仕事を任された時など、何か取り組む前に、自分のなすべきことの目的、狙いが明確になっているか、それを自分が納得できているかどうかを確認することである。不明確な場合は、関係者と共に明確化をする、自分が納得できていないところがあれば、関係者に納得できるまで確認する。少なくとも自分なりの目的を設定することが必要である。

目的が、経済的効果を求めているのか、人間関係の改善を期待しているのか、環境や道具立て等外部要因を改良しようとしているのか、数値目標はあるのかないのか等、自分なりの仕分けができるようチェックシートを作ることも効果的手段であろう。

【計画の具体化】

目的がはっきりしたら、なすべきことのゴール(目標値)を定め、それを達成するための行動計画を策定する。行動計画は、誰が、何時まで、どのように遂行するか等が、5W1Hなどの観点からブレークダウンされているかを確認し、必要な事項を具体的に決めておく必要がある。

また計画が予定通り進まないリスクを想定し、バックアッププランを立てて置くことも、より確実に物事やり抜くための有効な手立てである。

【柔軟な発想やスピード対応力の必要性】

目的を達成すべく、行動計画に従って取り組みを行う際、計画通りに進行しているかどうかを常にチェックしておくことが肝要である。計画との乖離が出た場合、速やかにその原因を究明し是正対策を打たなくてはならない。また外部環境の変化等で、予定通りことが進まないケースが往々にして発生する。事前にバックアッププランが決まっている場合は別として、状況変化に応じた臨機の対応が必要とされ、柔軟な発想による計画変更が求められる。そして、変更した計画をスピーディーに実行しなくてはならない。

【柔軟な発想の駆使】

では柔軟な発想を駆使するためには、どのような点に注意を払うべきなのであろうか。

まずは、状況変化(計画との乖離の事実や環境そのものの変化)を先入観を持たず事実として

何が現実が発生しているのか冷静に把握し、客観的にどう対応すれば、状況変化を克服できるが熟慮決断することである。どのような状況下でも最適な対応を柔軟に発想できるよう、日ごろから経験も踏まえながら様々な選択肢をシミュレーションする等、想定演習的に自己鍛錬して、判断力、発想力を磨いておくことも一法と考えられる。過去の想定外の状況が発生した事例など意識して蓄積活用する等も効果的な手段である。

【スピード対応力の発揮】

状況に応じた最適な対応をスピーディーに実行することを常に心がけ、実践することである。日頃より実践的自己訓練を怠らないことも肝要である。落語家など話芸のプロの頓智やなぞかけ等当意即妙の受答えを参考にすることも頭の訓練に効果的であろう。

ただし、やみくもに行動するのではなく、何をなすべきか、主要な狙いは何かを意識して行動することを忘れてはならない。

【参考:戦略とは】

因みに、目的を明確にし、計画的に物事に取り組むということは、戦略的な行動をとることにつながる。戦略とは、目指すゴールを達成するための最適な道筋のことであり、以下の4条件を満たす必要がある。

目的性：「目的(狙い)」が明確になっていること

計画性：俯瞰的にもれなく「計画(道筋)」が具体化されていること

実現性：現実的に「実現が可能」な内容であること

整合性：全体に齟齬なく「一貫性」がとれていること

この4条件の中でも目的性と計画性は、戦略の主要な前提条件なのである。

(2019年11月)